

ですから、あなたがたは行つて、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。

マタイの福音書 28章 19、20節

冒頭の聖句は、イエス様の大宣教命令として知られます。

注目したいのは「あらゆる国の人々を弟子としなさい」とのことばです。

福音書によれば、イエス様ご自身が地上の生涯でなされた宣教の対象はイスラエル人に限られていました。しかしそれは全世界への福音宣教の準備であつて、イエス様の御心は人種や民族を越えてすべての人に福音が宣べ伝えられることでした。

そして、世界へ働きを展開することは、聖霊の導きと弟子たちの働きにイエス様は託されたのです。

その後、2000年間にわたつてその思いは受け継がれ、イスラエルからはるか遠く離れた日本にも届き、今、私たちは救いに入れられました。それ故に私たちもまた、冒頭の聖句、イエス様の語りかけを自らのものとして受け止めたいと思います。

さて、この時代、私たちが暮らすこの街には、まさに「あらゆる国の人々」が行きかっています。島国である日本は、歴史を振り返れば、外国人が大勢行きかうということはあまりなかったでしょう。そういう意味では、この国にとつてかつてない時代に私たちは生きています。

以前、私の長男が小学生だった頃と比べて、7年後に次男が小学生の頃には、外国籍の親を持つクラスメイトが格段に増えていて、地域の変化を感じたことです。同級生に外国人がいるということがほとんどなかった時代に育った私などは、今でも関わるのに少し身構えてしまいます。しかし、子どもたちは、人種や民族の違いという以前に、同じ街に住む一人の人として普通に接しています。時代と社会構造の変化を感じます。

具体的に関わりを持つとすれば、文化的な背景の違いから容易ではないことも様々とあります。知識と知恵、胆力が必要です。

主はこの街にこの教会を建てました。この時代に主は私たちに何を期待しておられるでしょう。まずはこの時代や社会についてもっと知ることが必要です。そこから主の導かれるところを捉えたいと願います。(泰)

【礼拝賛美】「イエスの血潮で」

(★↓※↓★の順序で歌う)

★イエスの血潮で 救われ いやされ

天の御国へと 導かれる

イエスの血潮で 赦され 満たされ

尊い その血潮で

※天の父と こひつじイエス

ひざまずき歌う 聖なる御名

全地は歌う あがないの歌

栄光は主にあれ

・岸田悟牧師(茅ヶ崎シオン)より、先週行われた講壇交換について感謝のハガキを頂戴しました。掲示板をご覧ください。悟牧師の尊いご奉仕に感謝します。茅ヶ崎を教職者一人体制で牧会にあたっています。悟牧師の霊と肉とが支えられるようにお祈りしましょう。

・青年たちによる沼津奉仕訪問はとても喜ばれました。土曜日午後は子ども集会での奉仕。集会に来会の沼津中高生から今月開催のCLUB ZIONへの参加申し込みがありました。

